

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年11月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470103544		
法人名	(有)藤山商事		
事業所名	グループホームあい		
所在地	〒732-0043 広島市東区東山町15番2号 (電話)082-264-1006		
自己評価作成日	H22.11.18	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>市内で閑静な小高い場所にあるグループホームで病院と併設している。 3, 4, 5階の見晴らしの良い部屋がホームになっている。管理者・職員は入居者の能力の把握、残存機能の維持の支援に取り組んでいる。病院の医師・看護師と連携し健康管理をされて、24時間安心な生活が送れるようにしっかりと見守りをしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>市内を一望できる場所に病院があり、その建物の中にグループホームあいがあります。周りには高層マンションや公園があり、ショッピングセンターも近くにあり、交通の便もよい住環境です。管理者、職員は入居者の身体機能が維持できるよう、自立に向けた支援に取り組まれている。病院と併設しており安心な医療を受ける事ができ、週に3回の医師の診療で健康管理をされ入居者本意に居心地のよいホームにと努められている。</p>
--

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミーティングを行い、同じ理念の元、実践につなげている。	あいの理念(自立に向けた支援、機能維持)を全員が共有されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方々にもご協力頂ける様、努力している。	秋祭りにはお神輿が来て入居者は楽しみにされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方や面会者等にも理解して頂ける様努力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議において出された意見や助言を頂き、職員で検討し取り組んでサービス向上に努めている。	運営推進会議には地域の代表、民生委員、市の職員、家族、入居者、職員の出席があり、グループホームからの状況報告や主席者からの提案で、研修生やボランティアの受け入れを検討されたと意見があり、話し合わせ、その意見を検討されている。	
5	4	市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市・町担当者との、情報や意見、助言を頂き、努力している。	市の職員の方が生活調査に来られた時に状況報告をされ、電話では不在者投票の件、介護報酬の件、ホームの空き状況の件など市との連携がされている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	止むを得ない場合を除き、身体拘束をしない様、心がけている。	職員は身体拘束については理解されている。日々、なるべく見回りをして拘束がないよう対応されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者の性格・個性を把握し虐待につながらない様、努力している。		

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	市町が行う勉強会に出席し、知識を高め、情報を取り入れ、個々の関係を把握し活用出来る様、努力している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	書面をもって十分な説明を行い、又家族の意向もお聞きし、理解・納得の上で契約・解約につなげている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族、利用者の意見はしっかり受け止め、職員や上司の助言を受け、運営に反映させている。	運営推進会議の際、家族からこれから寒くなるので温かい食べ物や飲み物は冷めないように提供してほしいとの意見があり、ラップをかけたりし、できるだけ冷めないよう温かい食事の提供をされている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフから意見や提案が出た時は、ミーティングを行い改善すべき点は改善し、運営がスムーズに行える様、努力している。家族からの意見・不満・苦情等が出された時は、スタッフ間でミーティングを行い改善方法を見出し、サービス向上に努めている。	勤務体制についての要望を聞き、ミーティングでの意見は聞きいれている。ユニホームに対して要望があり改善された。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修会を設けたりして、各自が向上出来る様、環境整備に努めている。			
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会には参加し、研修した事を他のスタッフにも伝達し実践し、より良いサービスを提供出来る様、努めている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	取組みが出来る体制を徐々に整えている。			

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>環境の変化・不安・要望をしっかりと受け入れ、本人様が早く慣れ、楽しく生活出来る様、配慮している。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族から相談や要望はよく聞いて受け止め、利用者や家族が不安なく生活出来る様、努めている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービスを受ける前の面接で不安・要望等をよく聞き、安心して利用して頂ける様、配慮している。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>自分で出来る事をやって頂く様見守りを行い、出来た事に本人と職員と共に喜び合い、信頼関係を築いている。</p>			
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人との会話の中から、時代を学び、現代との関わりの情報を交換することにより、本人と共に支え合う関係を築いている。</p>			
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>訪問者があった時など、和やかな雰囲気づくり、外出され帰所された時など、雰囲気には気配りしている。</p>	<p>家族の面会や友達の訪問があり、いつでも自由に来てもらえるよう雰囲気づくりがされている。(音楽の先生をされていた方に生徒さんの訪問もある)</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>レクリエーションをしたり、作業して頂くことで利用者同士の交流・協力で支援している。</p>			
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>サービスが終了しても、利用者・利用者の家族には声かけ等を行い、人間関係を大切にしている。</p>			

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりのこれまでの生活歴を把握し、希望を尊重している。	残存能力の維持の支援に努め、今したいことを把握し、入居者の気持ちを大切にされている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、生活環境も大切にしながら新鮮な風も取り入れ、本人の意欲・気持ちの向上に努める様、努力している。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りにより、本人の心身状態の把握に努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時には、本人・家族・スタッフ等の意見・要望を取り入れ、本人がより良く生活出来る介護計画作成に努力している。	家族、入居者の希望をいれて職員は入居者本位の介護計画を作成されている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り・本人の日々の状態・介護方法・情報等の把握に努め、介護計画の見直し、支援に活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりのニーズを把握し、柔軟な支援をする様、努力している。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要に応じて、警察・消防・地域包括支援センター等の機関の協力を頂いている。			
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	併設の病院から適切な医療を受けたり、本人の希望する医療機関を受診する際には、情報提供も行っている。	併設の病院から往診が週に3回[(月、木、土)あり]個別の受診もされている。歯科医の往診が週1回あり入居者に喜ばれている。		

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の病院の看護師とのコミュニケーションにより、日常の健康管理においては助言・指導を受けている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の病院に先ず入院している為、医師・看護師共によくわかっている為、利用者が入院した時の不安感は軽くて済んでいる。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期については、家族・医師・看護師が話し合い、他の医療機関と共に支援に取り組んでいる。	入居の際、家族には急変された時のことなどはしっかり話し合い家族の意見を聞き対応される。酸素など必要になったときは併設の病院に入院される又、回復されるとグループホームでの支援がされている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時の初期対応については、日頃より看護師・医師に指導してもらい、初期対応・実践力の向上に努めている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署に御指導頂き、避難訓練を年に2回行い、スムーズに利用者を避難出来る技術を身につける様努力していると共に、地域の関係機関にも協力頂ける様、努力している。	年に2回消防署の指導のもとに消火訓練、避難訓練、器具の実施訓練があり職員は入居者が避難できるよう訓練で技術を身につけられている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人のプライバシーは堅く守り、他入居者への気配りにも十分気を付ける様、努めている。	個人情報を守秘義務を守り、言葉使い、ドアの開け閉め、オムツ交換に気をつけられている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や思いが表せる様、言葉を易しくしたり表現方法を変えたりして説明し、納得して頂いている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の思いや生活スタイルには希望に沿える様、支援している。			

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	理・美容院は、本人が望む所へ行って頂いている。身だしなみ・おしゃれに関しては、本人らしく出来る様、支援している。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	リビングにて皆で食事を摂っている。準備・片付けも出来る範囲でやって頂いている。	入居者の希望に対応できるよう刻み食、ミキサー食を提供され、配膳や片付けの手伝いをされる方もいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養面においては、病院の栄養士のもとにバランスの取れたメニューになっている。水分量においては、声かけをして摂取して頂いている。歯の状態や嚥下状態にあった調理になっている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアにおいては、一人ひとりの口腔状態に応じて支援している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行ったり、声かけをして失敗を減らす様、努力している。	排泄パターンを把握し誘導したり、本人のプライドを傷つけないよう声かけをされている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘対策には、食事時に便秘に良い食品は食べる様、声かけて支援している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一般浴と特浴と分けて入浴を行っている。一人ひとりの希望に沿う様にしている。入浴時間はゆっくり楽しめる様、配慮している。	入浴時その方の気分に合わせ、ゆっくりと入られるよう支援されている。一般浴、特浴があり希望に添う支援がされる		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お昼寝時間も長くならない様、気配りしている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師・看護師・薬剤師と相談して、目的・副作用を理解し服薬の支援を症状の変化にも対応し、確認に努めている。			

グループホームあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物をたたんだり、テーブルを拭いて頂いたり、役割分担し、又翌月のカレンダーを作成したり気分転換等を支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来る限りの範囲で支援している。家族と共に出かけられる時は、安心して出かけられる様、支援している。	家族との外出はあり入居者の希望に応じられる。ホームとしての外出支援はない	外出支援は普通の生活で当たりまえです。ホームの中だけで過ごさず戸外に出かけるよう支援を期待します。僅かな時間、すぐ前の公園に散歩に行かれることも外出支援です。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来る限りお金の大切さを理解出来る様、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自らの電話・手紙のやり取りには、支援出来ている。利用者は喜んでおられる。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、利用者にとって居心地よく過ごせる様になっており、清潔に努め、不快感がでない様にしている。	広いリビングで体操、トランプ、風船バレーなどみんなで楽しむことを支援されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	安全面に気を配り、利用者が思い思いに過ごせる様な居場所作りに努めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに出て利用者が雑談したり、おやつタイムの時間を過ごしたり、ホールを歩いて運動したり各個人の思いで使ってもらっている。	家族の写真が貼られた部屋でテレビをみたりして思い思いに過ごされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全面を考え、自立した生活が送れる様、工夫と努力をしている。		